

## 第5学年 体育科学習指導案

令和4年11月25日（金）5校時

児童数 40人

指導者

### 1 単元名 「 跳び箱運動 」

### 2 運動の特性

#### (1) 一般的な特性

基本的な支持跳び越し技（切り返し系、回転系）に取り組み、それぞれの系について自己の能力に適した技を身に付けたり、新しい技に挑戦するとき楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

#### (2) 児童から見た特性

### 3 運動の学び方

- ・学習の中で、自然に友達と教え合う雰囲気がある。
- ・前向きに、新しい技に挑戦してみようとする児童が多い。
- ・自分に合っためあてを立てることはできるが、自分の活動を視点をもって振り返る事が難しい児童もいる。
- ・撮影してもらった自分の運動の姿を見返したり、手本の動画を見たりして、タブレット端末を活用できる。
- ・跳び箱の学習に対して23人（57%）の児童が「好き」「だいたい好き」、と答えている。その主な理由として「跳べたら気持ちが良い」「友達からほめられるとうれしい」「達成感がある」「高い段をとべたらうれしい」「練習すると上手になるから」が上がっていた。今までの経験から、跳び箱の、「練習を重ねることで段数が上がっていく楽しさや気持ちよさ」を感じている児童が多いことが分かった。
- ・跳び箱の学習に対して17人（43%）の児童が「あまり好きではない」「好きではない」と答えている。その理由として、「失敗したら痛い」「落ちたら怖い」と答えている児童が大半であったことから、跳び箱に対して恐怖心を持っている児童が多いことが分かった。
- ・児童のレディネス「開脚とび（縦）・かかえこみ跳び（縦）・台上前転」は、以下の通りである。

【 できる技 ○人/39人 】

(最高で)	3段	4段	5段	6段	7段
開脚跳び	2人	5人	10人	6人	16人
	できる	できない	/	/	/
かかえこみ跳び	21	18	/	/	/
台上前転	31	8	/	/	/

### 4 教師の授業への意図

- ・導入の段階で跳び箱のお手本の動画を見せることで、「跳び箱は、高い段や難しい技だけでなく、美しさを求める楽しさもある」ことを実感させ、跳び箱に苦手意識のある児童でも学習意欲が高まるようにする。また、その中で「技をカッコよくすることは、踏切、着手、着地にポイントがある」ことをつかませるようにし、「カッコいい」の基準を児童と決めるようにする。
- ・1時目は、自分がかっこよくしたい技を動画に撮影する。動画を撮影しておくことで、自分の技の精度が上達していていることを実感させるようにする。
- ・単元を通した目標の実現に向けて、2時日以降は1時間の中で2つのめあてを設定する。めあて1の活動を「カッコいいを増やそう」とし、同じ段に挑戦する物同士で見合い、技の美しさの高まりを目指すようにする。また、めあて2の活動を「新しい技に挑戦しよう」とし、自分達で場作りをするなどして様々な技の練習に取り組むようにする。めあて1とめあて2に取り組む児童を混合させることで、技の得意な児童が自然とお手本となったり、苦手な児童に教えたりする環境を仕組むようにする。
- ・まとめの時間には「きりりタイム」を設定し、「カッコいい友達紹介」「新しい技ができた人」を紹介し、全員技の達成に向けて、意見交換の場になるようにし、次時のめあてにつながるようにする。
- ・ワークシートには、「カッコいい」の基準が達成できていたかを友達に見てもらい、サインをもらえるようにする。そうすることで、友達と協力し合って技を高めていこうという雰囲気作りができるようにする。

5 評価規準

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元に盛り込む 評価規準	跳び箱運動の行い方を知っている。	跳び箱運動の切り返し系や回転系の基本的な技を身につけている。	自分の力に合っためあてを持ち、技ができるようになるための運動を工夫するとともに、考えたことを友だちに伝えている。	跳び箱運動の楽しさや喜びに触れることができるように、進んで取り組もうとするとともに、きまりを守り、運動する場や器具・器械の安全を確かめている。
学習活動に即した 評価規準	①切り返し系や回転系の基本的な技の動き方やポイントを知っている。 ②切り返し系や回転系の基本的な技の練習の仕方を知っている。	③自分の力に合った切り返し系や回転系の基本的な技ができる。	①自分の力にあった課題を見つけ、課題解決のための活動を考えている。 ②課題解決のために考えたことを友だちに伝えている。	①器具・器械の使い方や運動を行う際のきまりを守り、基本的な技に進んで取り組もうとしている。 ②運動する場や器具・器械の使い方などの安全を確かめている。

6 学習の道筋と評価計画

時間	1	2・3 (本時)・4・5・6・7						
過程	つかむ	挑戦する						
学習活動	単元を通した目標：「できた！とべた！かっこいい！を増やそう！」							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の目標と流れをつかむ。</li> <li>・場の設定の仕方を知る。</li> <li>・準備運動の仕方を知る。</li> <li>・安全面の確保の仕方を知る。</li> <li>○できる技に挑戦する。</li> <li>・学習を振り返る。</li> </ul>	めあて①：技のきれい・かっこいいを増やそう。						
		活動の工夫①：同じ段に挑戦する友達と見合ったり、ワークシートに記入してもらったりすることで、技のポイントを意識して技の上達を目指す。						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が停滞しそうな児童を中心に個別指導を行う。</li> <li>・学び方や安全面についてのことなど、全体で共有したい内容は全体指導を行う。 【 教師の指導 】</li> </ul>						
		めあて②：色々な技に挑戦しよう。						
活動の工夫②：タブレット端末を活用して撮影した動画を見返したり、助言し合ったりする。								
評価項目	知		①	①	②	②	③	③
	思			①	①	①	②	②
	主	① ②	①②					

7 本時について（4／6）

(1) 目標

繰り返し系や回転系の基本的な技の練習ができる。【知・技】

自分の力にあった課題を見つけ、課題解決のための活動を考えることができる。【思・判・表】

(2) 展開

過程	学習活動	指導○ 評価◇
はじめ	<p>1 場の準備を行い、準備運動をする。</p> <div data-bbox="288 450 772 577" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【準備運動】</b>                      ・うさぎ跳び・あざらし                      ・馬跳び</p> </div> <p>2 めあてと本時で挑戦する技を確認する。</p> <div data-bbox="320 775 1289 875" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>めあて① きれい・かっこいいを増やそう！                      めあて② 新しい技に挑戦しよう！</p> </div>	<p>○準備運動が済んだ児童から学習カードとタブレット端末を準備させ、本時のめあてを確認できるようにし、学習の見通しを持たせる。</p> <p>○児童が取り組みの見通しをもっているかを確認する。</p>
中	<p>3 活動を行う。</p> <p>めあて①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かっこいい」の基準や場の安全を意識して活動する。</li> </ul> <div data-bbox="288 1077 772 1267" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【「かっこいい」の基準】</b>                      予想される児童の発言から                      ・大きなふみきり・段数                      ・着手                      ・着地</p> </div> <p>めあて②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お手本動画を見たりや友達のアドバイスなどを取り入れたりしながら活動する。</li> </ul> <div data-bbox="288 1447 772 1603" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【「できた」の基準】</b>                      予想される児童の発言から                      ・つまさきそろえてピタッと二秒を5回</p> </div>	<p>○めあて①の児童は赤帽子、めあて②の児童は白帽子にさせ、練習状況を把握できるようにする。</p> <p>○活動の時間の計画を立てさせ、めあて①もめあて②も取り組めるようにする。</p> <p>○授業前半は、繰り返し挑戦しても中々達成できないでいる児童や活動が停滞している児童を中心に個別に、或いは、複数人を集めて指導する。特に「開脚跳び」「かかえこみ跳び」に取り組む児童への指導を重視する。</p> <p>○「かっこいい」の基準が達成できていたら、友達に見てもらってサインを書いてもらうようにする。</p> <p>○「できた」の基準が達成できたら、自分でシールを貼るようにする。</p> <p>○めあての達成に向け、必要に応じて掲示されている技のコツを確認したり、タブレット端末で手本動画を見たりするよう促す。</p> <p>○授業後半は、「台上前転」「首はね跳び」「頭はね跳び」に挑戦する児童を中心に助言・指導を行う。</p>
終わり	<p>4 学習を振り返る。</p>	<p>○「かっこよくできていた友達」「新しい技ができるようになった友達」を紹介しあう機械をつくり、技のこつなどを共有し、次時のめあてにちなむようにする。</p>
<p>◇繰り返し系や回転系の基本的な技の練習の仕方を言ったり書いたりしている。【知・技】                      ◇自分の力にあった課題を見つけ、課題解決のための活動を書いたり伝えたりしている。【思・判・表】</p>		